

2 小麦

(1) 国際的な小麦需給の概要

○2008/09年度の小麦需給（予測）のポイント

小麦の供給面では、昨年度の需給ひっ迫と価格高騰により世界的に増産意欲が高まり作付が増加している中、これまでの天候が順調に推移していることなどから、世界的な生産量の増加が見込まれている。

需要面では、堅調な食用の需要に加え、昨年度の価格の高騰等により抑制された飼料用需要が拡大し、世界の消費量は増加が見込まれている。

期末在庫量については、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから在庫の積み増しが行われ、期末在庫率も回復し、世界の小麦需給の引き締めりは緩和すると見込まれる。

【生産量】

生産量は、価格高騰による世界的な増産意欲の高まりや、これまでの天候が比較的良好であり昨年の干ばつや天候不順による単収低下が回復したことなどから、EU、米国、ロシア等で増産が見込まれ、世界全体では前年度より69.3百万トン増加（11.3%）し、680.2百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で3.9百万トン上方修正されており、国別にはカナダ、米国、ロシアが良好な天候等を反映して上方修正され、オーストラリア、EUが下方修正された。

【消費量】

消費量は、飼料用需要を中心にEU、中国等で増加が見込まれ、世界全体では前年度より37.5百万トン増加（6.1%）し、655.6百万トンとなる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.7百万トン上方修正されており、国別にはロシア、米国が上方修正され、EUが下方修正された。

【貿易量】

世界全体の貿易量は、8.3百万トン増加（7.3%）し、123.2百万トンとなる見込みである。

国別には、輸出国ではウクライナ、オーストラリア、EU等で輸出量の増加が、昨年輸出量が急増した米国や生産量の減少が見込まれるアルゼンチンで輸出量の減少が見込まれている。一方、輸入国では、モロッコ、アルジェリア等で輸入量の増加が、EU等で輸入量の減少が見込まれている。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で0.3百万トン上方修正されており、国別にはカナダの輸出量、アルジェリア、エジプトの輸入量が上方修正され、アルゼンチンの輸出量、モロッコ、インドネシアの輸入量が下方修正された。

【期末在庫量】

期末在庫量は、生産量の増加等を反映し、4年ぶりに生産量が消費量を上回ることから、米国、オーストラリア等で大きく積み増しされ、世界全体では前年度より24.6百万トン増加（20.5%）し、144.4百万トンとなる見込みであり、期末在庫率も22.0%に回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、世界全体で4.5百万トン上方修正されており、国別にはEU、米国、カナダが上方修正され、ロシア、オーストラリアで下方修正された。

表－1 世界の小麦需給

(単位:百万トン)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	596.3	610.9	680.2	3.9	11.3
EU-27	124.9	119.3	147.2	▲ 0.0	23.4
中国	108.5	109.9	114.0	-	3.8
インド	69.4	75.8	78.4	-	3.4
米国	49.3	56.2	68.0	1.0	20.9
ロシア	44.9	49.4	61.0	1.0	23.5
カナダ	25.3	20.1	27.3	1.9	36.2
オーストラリア	10.8	13.0	21.5	▲ 0.5	64.9
消費量	616.9	618.1	655.6	0.7	6.1
うち飼料用	106.3	95.0	123.7	▲ 0.8	30.3
EU-27	125.5	117.7	131.5	▲ 1.0	11.7
中国	102.0	104.0	107.0	-	2.9
インド	73.4	75.7	77.6	-	2.5
ロシア	36.4	37.7	43.0	1.5	14.1
米国	31.0	29.0	35.5	0.3	22.4
パキスタン	21.9	22.4	22.6	-	0.9
トルコ	16.7	16.8	16.9	-	0.6
貿易量	111.2	114.9	123.2	0.3	7.3
(輸出)					
米国	24.7	34.4	27.2	-	▲ 20.9
カナダ	19.4	16.1	18.5	1.0	14.8
オーストラリア	8.7	7.5	14.0	-	87.4
EU-27	13.9	12.2	18.0	-	47.2
ロシア	10.8	12.2	14.0	-	14.6
アルゼンチン	10.5	10.0	7.0	▲ 0.5	▲ 30.0
ウクライナ	3.4	1.2	9.0	-	625.8
(輸入)					
エジプト	7.8	7.3	7.7	0.2	5.5
ブラジル	7.6	7.0	7.0	-	0.0
アルジェリア	5.5	4.9	5.9	0.4	20.7
インドネシア	5.0	5.6	5.2	▲ 0.1	▲ 6.4
日本	5.5	5.7	5.7	-	▲ 0.8
EU-27	5.1	6.9	5.0	-	▲ 27.8
モロッコ	2.4	1.8	4.2	▲ 0.5	132.7
期末在庫量	127.0	119.8	144.4	4.5	20.5
中国	38.5	41.5	46.6	-	12.1
米国	12.4	8.3	16.4	0.7	96.6
EU-27	14.0	10.3	13.0	1.0	26.0
オーストラリア	4.4	3.9	5.3	▲ 0.5	35.4
インド	4.5	6.4	7.2	-	11.7
ロシア	2.4	2.2	6.6	▲ 0.6	199.6
カナダ	6.8	4.8	6.1	0.7	27.0
期末在庫率	20.6%	19.4%	22.0%	0.7	2.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

(2) 小麦の主要生産・輸出国等の需給状況

ア 米国

【需給状況】

米国の生産量は、前年度より11.8百万トン増加（20.9%）し、68.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、とうもろこしの価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より6.5百万トン増加（22.4%）し、35.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、昨年度は干ばつや天候不順等により輸出が低迷した主要国の輸出量が本年度は回復すると見込まれ、米国への集中が弱まることから7.2百万トン減少（▲20.9%）し、27.2百万トンとなる見込みである。

この結果、昨年度大幅に減少した期末在庫量は、8.1百万トン増加（96.6%）と大幅に積み増しされ、16.4百万トンとなり、期末在庫率も26.1%（13.0ポイント増）まで回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積が下方修正されたものの、単収の上方修正による影響がより大きかったため、生産量が1.0百万トン上方修正された。また、飼料用需要を中心に、消費量が0.3百万トン上方修正されている。これらを受け、期末在庫量は0.7百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

米国の冬小麦は2008/09年度の収穫を終え、作柄については、優良が10%と前年度の同時期や最終に比べ低くなっているものの、優良～普通までの合計では76%と前年度の最終の75%を上回っている。また、2009/10年度の作付けが始まり、主要18州での進捗は84%と過去5年の平均に比べ4ポイント（前年同時期と比較し2ポイント）遅れている。発芽率は69%と過去5年の平均と同じであり、前年同時期と比較し3ポイント進んでいる。小麦の主要産地で天候に恵まれたことから、作付、発芽とも順調に進んでいる。

春小麦の作柄については、優良が14%と前年最終と同じ値となっている。また、優良～普通までの合計は83%と前年度の最終の87%より4ポイント低下している。

我が国の輸入先国シェア 1位（2007年数量ベース60.0%）
世界の生産量シェア 4位（2008/09年度10.0%）
輸出量シェア 1位（2008/09年度22.1%）

表-2 米国の小麦需給（市場年度：6月～翌年5月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	49.3	56.2	68.0	1.0	20.9
消費量	31.0	29.0	35.5	0.3	22.4
うち飼料用	3.3	0.8	7.1	0.3	763.4
輸出量	24.7	34.4	27.2	-	▲20.9
輸入量	3.3	3.1	2.7	-	▲11.4
期末在庫量	12.4	8.3	16.4	0.7	96.6
期末在庫率	22.3%	13.1%	26.1%	1.1	13.0
(参考)					
収穫面積(百万ha)	18.94	20.64	22.54	▲0.36	9.2
単収(t/ha)	2.60	2.72	3.02	0.09	11.0

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

○ 米國小麦の生育進捗状況及び作柄（10月26日現在）

〔生育進捗状況（冬小麦：主要18州）〕

冬小麦 作付率 84%（平年差：▲4 p、前年差：▲2 p）
（2009/10年度）発芽率 69%（平年差：±0 p、前年差：+3 p）

〔作柄（冬小麦：主要18州、春小麦：主要6州）〕

		単位：%				
		優良	良	普通	不良	極不良
冬小麦	2008/09	10	36	30	14	10
	前年度同時期	14	34	27	16	9
	前年度最終	12	35	28	15	10
春小麦	2008/09	14	41	28	12	5
	前年度同時期	14	52	21	8	5
	前年度最終	14	52	21	8	5

注：優良-Excellent、良-Good、普通-Fair、不良-Poor、極不良-Very Poor

資料：USDA「Crop Progress」冬小麦の作柄については6月22日報告のデータ、春小麦の作柄については8月24日現在のデータである。

注：生育進捗状況の（ ）内は同時期の平年値（過去5年）及び前年同時期との比較である。

イ カナダ

【需給状況】

カナダの生産量は、作付けの増加などから前年度より7.2百万トン増加(36.2%)し、27.3百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.5百万トン増加(23.6%)し、7.8百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より2.4百万トン増加(14.8%)し、18.5百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.3百万トン増加(27.0%)し、6.1百万トンとなり、期末在庫率も23.3%(1.8ポイント増)とやや回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積および単収が上方修正されたことを受け、生産量が1.9百万トン上方修正されている。生産量の増加に伴い、輸出可能な小麦の量が増大するため、輸出量も1.0百万トン上方修正されている。また、飼料用需要を中心に、消費量が0.2百万トン上方修正され、期末在庫量も0.7百万トン上方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度は生育の遅れによって収穫が遅れていたが、9月に雨が少なかったことから収穫の遅れを取り戻すことができた。また、収穫の遅れに伴い早霜の影響が懸念されていたが、霜の発生が遅かったことから大きな霜の被害は発生していない。

ウ オーストラリア

【需給状況】

オーストラリアの生産量は、2年連続の干ばつによる減産から回復し、前年度より8.5百万トン増加(64.9%)し、21.5百万トンとなる見込みである。収穫面積が、降水量の増大、小麦価格の高騰による生産意欲増大、前年度の牧草地からの転換分などから過去最大となると見込まれる。

消費量は、前年度並の6.2百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の回復から6.5百万トン増加(87.4%)し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、1.4百万トン増加(35.4%)し、5.3百万トンと積み増しされるが、期末在庫率は26.0%(2.4ポイント減)となる見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥が続いたことを受けて収穫面積が下方修正され、生産量が0.5百万トン下方修正された。これに伴い期末在庫量が0.5百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

8月末までは降水量が少なく乾燥した天候が続いていたが、9月の降水量はウェスタンオーストラリア州やニューサウスウェールズ州北部などで平年を上回った。しかし、ウェスタンオーストラリア州では、霜の到来により、雨による土壌水分改善の効果は小さくなってしまった。また、ニューサウスウェールズ州南部やビクトリア州北部は乾燥が続いている。

今後の天候の状況によって、小麦の生産量予測はさらに引き下げられる可能性がある。引き続き天候に注視が必要である。

我が国の輸入先国シェア 2位 (2007年数量ベース21.5%)
世界の生産量シェア 6位 (2008/09年度 4.0%)
輸出量シェア 3位 (2008/09年度15.0%)

表-3 カナダの小麦需給(市場年度: 8月~翌年7月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(AAFC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	25.3	20.1	27.3 (25.4)	1.9	36.2	
消費量	9.0	6.3	7.8 (8.4)	0.2	23.6	
うち飼料用	4.8	2.1	3.2 (3.7)	0.2	53.8	
輸出量	19.4	16.1	18.5 (16.9)	1.0	14.8	
輸入量	0.3	0.4	0.3 (0.0)	-	▲ 23.1	
期末在庫量	6.8	4.8	6.1 (5.0)	0.7	27.0	
期末在庫率	23.9%	21.5%	23.3% (19.8%)	1.7	1.8	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	9.68	8.64	10.10 (9.96)	0.10	16.9	
単収(t/ha)	2.61	2.32	2.70 (2.55)	0.16	16.4	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 AAFC 「Grain and Oilseeds Outlook (September 17, 2008)」						

我が国の輸入先国シェア 3位 (2007年数量ベース18.0%)
世界の生産量シェア 7位 (2008/09年度 3.2%)
輸出量シェア 4位 (2008/09年度11.4%)

表-4 オーストラリアの小麦需給(市場年度: 10月~翌年9月)

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09			
			予測値(ABARE)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)	
生産量	10.8	13.0	21.5 (22.5)	▲ 0.5	64.9	
消費量	7.4	6.2	6.2 (6.7)	-	0.0	
うち飼料用	4.7	3.5	3.5 (3.7)	-	0.0	
輸出量	8.7	7.5	14.0 (15.7)	-	87.4	
輸入量	0.1	0.1	0.1 (…)	-	▲ 27.3	
期末在庫量	4.4	3.9	5.3 (…)	▲ 0.5	35.4	
期末在庫率	27.3%	28.4%	26.0% (…)	▲ 2.4	▲ 2.4	
(参考)						
収穫面積(百万ha)	11.80	12.35	13.50 (13.55)	▲ 0.50	9.3	
単収(t/ha)	0.92	1.06	1.59 (1.66)	0.02	50.0	
資料: USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、 「Grain: World Markets and Trade」、 「World Agricultural Production」、 ABARE 「AUSTRALIAN CROP REPORT (September 2008)」						

エ EU-27

【需給状況】

EUの生産量は、EU共通農業政策(CAP)における10%の生産調整面積が2008/09年度の作付けにおいて適用されない中で、価格高騰による作付け意欲の拡大や単収の増加などにより、前年度より27.9百万トン増加(23.4%)し、147.2百万トンと過去最高を記録する見込みである。

消費量は、とうもろこし、ソルガム、大豆粕の価格高騰により小麦の飼料用需要の増加が見込まれることから前年度より13.8百万トン増加(11.7%)し、131.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから5.8百万トン増加(47.2%)し、18.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.7百万トン増加(26.0%)し、13.0百万トンとなり、期末在庫率も8.7%(0.8ポイント増)と回復する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、生産量がわずかに下方修正されている。また、消費量は1.0百万トン下方修正された。その結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

小麦の収穫は終了した。フランスとドイツでは、収穫された小麦のたん白含有率が昨年より低くなっている。

【貿易情報】

穀物の輸入関税の課税を2008年1月より停止していたが、2008年10月に再度導入することを決定した。

オ 中国

【需給状況】

中国の生産量は、良好な天候から単収の増加が見込まれ、前年度より4.1百万トン増加(3.8%)し、114.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、飼料用の増加から前年度より3.0百万トン増加(2.9%)し、107.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、前年度より0.8百万トン減少(▲29.6%)し、2.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、5.1百万トン増加(12.1%)し、46.6百万トンとなり、期末在庫率も42.7%(3.8ポイント増)と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

2008/09年度の小麦の収穫は終了しており、2009/10年度の作付けが始まっている。主な産地である山東省と河南省では、夏トウモロコシの収穫が遅れた影響で、冬小麦の作付けの開始が1週間から2週間遅れた。

【貿易情報】

2007年12月に輸出還付を取り消し、2008年1月から輸出税を賦課している。なお、以前より輸出割当許可証管理を行っている。

〔世界の生産量シェア1位(2008/09年度21.8%)〕
〔輸出量シェア2位(2008/09年度14.6%)〕

表-5 EU-27の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	124.9	119.3	147.2 (147.6)	▲ 0.0	23.4
消費量	125.5	117.7	131.5 (131.0)	▲ 1.0	11.7
うち飼料用	60.2	52.4	64.0 (59.1)	▲ 2.0	22.0
輸出量	13.9	12.2	18.0 (18.1)	-	47.2
輸入量	5.1	6.9	5.0 (6.5)	-	▲ 27.8
期末在庫量	14.0	10.3	13.0 (15.0)	1.0	26.0
期末在庫率	10.1%	7.9%	8.7% (10.0%)	0.7	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	24.47	24.72	26.41 (…)	▲ 0.29	6.9
単収(t/ha)	5.10	4.83	5.57 (…)	0.06	15.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

注:1)年度区分は、2008/09年度についてみると、生産量は北半球の2008年産冬小

(世界の生産量シェア2位(2008/09年度16.8%))

表-6 中国の小麦需給(市場年度:7月~翌年6月)

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	108.5	109.9	114.0 (112.5)	-	3.8
消費量	102.0	104.0	107.0 (…)	-	2.9
うち飼料用	4.0	6.0	9.0 (…)	-	50.0
輸出量	2.8	2.8	2.0 (2.1)	-	▲ 29.6
輸入量	0.4	0.1	0.0 (0.1)	-	▲ 40.0
期末在庫量	38.5	41.5	46.6 (…)	-	12.1
期末在庫率	36.7%	38.9%	42.7% (…)	-	3.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	22.96	23.10	23.40 (…)	-	1.3
単収(t/ha)	4.72	4.76	4.87 (…)	-	2.3

資料:USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」

IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

カ インド

【需給状況】

インドの生産量は、前年度より2.6百万トン増加（3.4%）し、過去最大の78.4百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.9百万トン増加（2.5%）し、77.6百万トンとなる見込みである。

輸入量は前年度から1.9百万トン減少（▲100.0%）し、0.0トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.8百万トン上昇（11.7%）し、7.2百万トンとなり、期末在庫率も9.2%（0.8ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は行われていない。

【生育進捗状況及び作柄】

インドにおける小麦の収穫は、4月～5月に順調に終了した。2009/10年度の作付は、11月頃から始まる予定である。

【貿易情報】

2007年9月から輸出が禁止されており現在も継続している。なお、2008年9月に種子用の小麦に限り輸出禁止が解除された。

（世界の生産量シェア3位（2008/09年度11.8%））

表－7 インドの小麦需給（市場年度：4月～翌年3月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	69.4	75.8	78.4 (78.4)	-	3.4
消費量	73.4	75.7	77.6 (…)	-	2.5
うち飼料用	0.3	0.2	0.1 (…)	-	▲ 50.0
輸出量	0.2	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸入量	6.7	1.9	0.0 (0.1)	-	▲ 100.0
期末在庫量	4.5	6.4	7.2 (…)	-	11.7
期末在庫率	6.1%	8.5%	9.2% (…)	-	0.8
(参考)					
収穫面積(百万ha)	26.40	28.00	28.00 (…)	-	0.0
単収(t/ha)	2.63	2.71	2.80 (…)	-	3.3

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

キ ロシア

【需給状況】

ロシアの生産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が少なかったことなどから、前年度より11.6百万トン増加（23.5%）し、61.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より5.3百万トン増加（14.1%）し、43.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから1.8百万トン増加（14.6%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、4.4百万トン増加（199.6%）し、6.6百万トンとなり、期末在庫率も11.6%（7.2ポイント増）と上昇する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫面積と単収の上方修正を受け、生産量が1.0百万トン上方修正された。消費量は1.5百万トン上方修正されている。この結果、期末在庫量は0.6百万トン下方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ロシア連邦全体の収穫は終了している。なお、生産量が非常に多かったため、国内における保管倉庫不足が問題となっている。

【貿易情報】

7月1日まで、輸出税が賦課されていた。

（世界の生産量シェア5位（2008/09年度 9.0%））
輸出量シェア4位（2008/09年度11.4%）

表－8 ロシアの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	44.9	49.4	61.0 (58.0)	1.0	23.5
消費量	36.4	37.7	43.0 (…)	1.5	14.1
うち飼料用	14.1	15.1	19.0 (…)	1.0	26.2
輸出量	10.8	12.2	14.0 (13.5)	-	14.6
輸入量	0.9	0.3	0.4 (0.4)	-	17.6
期末在庫量	2.4	2.2	6.6 (…)	▲ 0.6	199.6
期末在庫率	5.0%	4.4%	11.6% (…)	▲ 1.4	7.2
(参考)					
収穫面積(百万ha)	23.70	24.50	26.70 (…)	0.10	9.0
単収(t/ha)	1.89	2.02	2.28 (…)	0.02	12.9

資料：USDA 「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC 「Grain Market Report (25 September 2008)」

ク アルゼンチン

【需給状況】

アルゼンチンの生産量は、乾燥天候の影響による作付けの減少などから前年度より4.0百万トン減少（▲25.0%）し、12.0百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より0.1百万トン増加（0.9%）し、5.5百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の減少などから3.0百万トン減少（▲30.0%）し、7.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、0.5百万トン減少（▲54.5%）し、0.4百万トンとなり、期末在庫率も3.2%（2.5ポイント減）と低下する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、乾燥した天候が続いていることから収穫面積が下方修正された影響を受け、生産量が0.5百万トン下方修正されている。また、生産量の修正に伴い、輸出量も0.5百万トン下方修正されている。

【生育進捗状況及び作柄】

乾燥が続いており、小麦の生育に悪影響が発生している。また、気温の低下によって、霜の被害も発生し、小麦の品質が低下する可能性がある。引き続き天候への注視が必要である。

【貿易情報】

輸出税に関する新たな制度の導入を巡り農牧団体等が今年3月から断続的にストライキを実施。その後、7月に同制度の関連法案は廃案となった。なお、10月にも農家がアルゼンチン政府の農業政策に抗議するストライキを6日間行った。また、10月14日現在、干ばつによる生産減少の影響を見極めるため輸出商品手続きを停止中。

ケ ウクライナ

【需給状況】

ウクライナの実産量は、冬小麦の冬枯れによる影響が非常に少なかったことなどから、前年度より11.6百万トン増加（83.5%）し、25.5百万トンとなる見込みである。

消費量は、前年度より1.1百万トン増加（8.5%）し、14.0百万トンとなる見込みである。

輸出量は、生産量の増加などから7.8百万トン増加（625.8%）し、9.0百万トンとなる見込みである。

この結果、期末在庫量は、2.6百万トン増加（169.9%）し4.1百万トンと増加し、期末在庫率は18.0%（7.1ポイント増）と増加する見込みである。

なお、前月の予測からの改訂は、収穫結果を受けて単収が上方修正され、生産量が1.0百万トン上方修正された。この結果、期末在庫量が1.0百万トン上方修正された。

【生育進捗状況及び作柄】

ウクライナの冬小麦の収穫は終了した。食用品質の小麦は、2007/08年度は小麦生産量全体の40%であったが、2008/09年度は11%にまで低下する見込みである。

【貿易情報】

2007年11月から輸出量の枠が設定されていたが、2008年5月に撤廃された。

（世界の輸出量シェア7位（2008/09年度 5.7%）

表-9 アルゼンチンの小麦需給（市場年度：12月～翌年11月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	15.2	16.0	12.0 (13.0)	▲ 0.5	▲ 25.0
消費量	4.9	5.4	5.5 (4.9)	-	0.9
うち飼料用	0.1	0.1	0.1 (0.1)	-	0.0
輸出量	10.5	10.0	7.0 (8.6)	▲ 0.5	▲ 30.0
輸入量	0.0	0.0	0.0 (0.0)	-	-
期末在庫量	0.3	0.9	0.4 (0.5)	▲ 0.0	▲ 54.5
期末在庫率	2.0%	5.7%	3.2% (3.8%)	0.0	▲ 2.5
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.29	5.68	4.32 (…)	▲ 0.18	▲ 23.9
単収(t/ha)	2.88	2.82	2.78 (…)	-	▲ 1.4

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」

（世界の輸出量シェア6位（2008/09年度 7.3%）

表-10 ウクライナの小麦需給（市場年度：7月～翌年6月）

年 度	2006/07	2007/08 (見込み)	2008/09		
			予測値(IGC)	前月予測 からの変更	対前年度 増減率(%)
生産量	14.0	13.9	25.5 (24.0)	1.0	83.5
消費量	11.7	12.9	14.0 (…)	-	8.5
うち飼料用	2.1	3.1	4.0 (…)	-	29.0
輸出量	3.4	1.2	9.0 (8.0)	-	625.8
輸入量	0.1	0.3	0.1 (0.1)	-	▲ 69.7
期末在庫量	1.4	1.5	4.1 (0.0)	1.0	169.9
期末在庫率	9.5%	10.8%	18.0% (…)	4.3	7.1
(参考)					
収穫面積(百万ha)	5.50	5.95	7.00 (…)	-	17.6
単収(t/ha)	2.55	2.34	3.64 (…)	0.14	55.6

資料：USDA「World Agricultural Supply and Demand Estimates」、
「Grain: World Markets and Trade」、
「World Agricultural Production」、
IGC「Grain Market Report (25 September 2008)」